



社口原農地でこれからしたいこと

不耕起栽培による環境再生有機農業で 池田町を有機の町にする

多様な果樹を混植 食べられる森作り

足元にはベリーやハーブで覆い 持続可能で 多様性に富み 調和している学びの農場

牛 ヤギ 羊 にわとりを飼いメタンガス発酵や生ゴミ処理で循環の仕組みを学ぶ

エネルギーも自給 電気 温水 水の循環 有機断熱 センター広場として土に帰る家づくり お茶も飲める様にする **防災基地にもなる**

種とりができて 花が綺麗なもの ソバ 大根 菜花 下草の種とり農園として タネも販売 種バンクの活用

畑は勉強会の場とする

環境再生有機農場のモデル園とし**入場料で運営**する

フリースクール プレーパーク 子供の居場所作り

キッチンカー広場を作り農場でゆっくりランチやお茶を楽しむ 施設は作らずに運営

展望美術館を持続可能な博物館図書館とし たねバンクも併設

クラフトパーク（講演イベント会場）市民農園（駐車場はキャンピングカー利用できる）

社口原農地も一体として農場の収穫物はハーブセンタの加工場を利用販売

町営バス 徒歩 自転車移動 駐車場は作らない 社口原農地には土に帰るセンター施設のみとする

北アルプスまで含む広大な環境再生有機農場とする

池田町について

みんなが安心して暮らせて 訪れて移住したくなる町の実現

長野県の中央より北に位置する北安曇郡池田町。

その池田町の中でも殊更、美しい眺望を望める場所に社口原がある。

社口原は北アルプスを望む高台にあって北アルプスの展望が素晴らしい場所です。

広さ5.6ヘクタール（東京ドーム1.2個分）農地が環境再生型に変わる提案をします。

信州池田町はオーガニックタウン宣言をしています。

またハーブの町として北アルプスの展望の素晴らしさに移り住む人も多いエリアです。

いま国は**みどりの食料システム戦略**として有機農業を進めています。

立地条件

既に池田町ファームの方々がおこなって数年、無農薬で蕎麦・山菜などを栽培していた。

土壌が石粒に埋められており、通常の農業を営むには大規模な土壌改良が必要とされている。

ここで有効と思われるのが近年の世界の農業において注目を集めている

不耕起栽培による環境再生有機農業である。

また大地の再生と炭素循環農法の手法も土壌改良には有効である

多様な果樹を混植

足元にはベリーやハーブで覆い多様な持続的な有機農業生産のモデル園とする

これは米国カリフォルニアなどの乾燥地帯においても成功例があり、乾地であってもこの農法は有効であることは実証されている。この潮流はSDGsにおいても非常に前向きな方法であり、ウクライナ危機において化学肥料の価格の上昇などに左右されない上に、安全安心な農法である。現在の日本における農業の規制の緩さは、海外でも問題視されており、近年では台湾からイチゴが輸入拒否される事態となっている。

提案する農法と事業展開について

持続可能なテーマパーク

世界的に大規模農業が環境再生型有機農業（リジェネラティブオーガニック）に変わってきています。

社口原の農地が環境再生型有機農地に生まれ変わり有機や環境を学べる場所になる提案です。

●農場の入場料を財源として 衣食住 暮らしが地球に負荷をかけない循環型である事

展望美術館 クラフトパーク ふれあい農園までを共有施設とみなし

センター施設以外新たな施設は作らない

展望美術館を持続可能な環境再生有機農業博物館とし 持続可能な本を集めた図書館とする

ふれあい農園はキャンピングカーも利用できるスペースとして便宜を図る

社口原農地には駐車場は設けず 歩きか自転車とする 駐車場は展望美術館を利用

環境再生有機農場に多目的自給の仕組みが学べる施設を作る

電気の時給 水の循環 メタンガス施設 牛舎 ヤギ 豚 鶏による生ゴミ処理施設 循環モデル

全てが循環している様子を学べる **緑の学校** グリーンスクール

パーマカルチャー（持続可能な農的暮らしのデザイン）

動物がいて単一作物の生産でなく、循環や多様性 調和を学べる農園であり、

多様性を重要視し、持続可能と自然と調和している

・ **フリースクール**（教育の多様化）

・ **プレイパーク**（冒険遊び場）

木登りや泥んこ遊びなど、日常なかなかできなくなった遊びを通じ、

子どもたちの自主性や冒険心を育くみ成長できる遊び場

子供達に居場所を提供したい

社口原においての収益の可能性

入場料が見込められるのに3年はかかる見通しである。その間の収益の可能性を挙げる。それが講座収入

各種講座収入とオーガニックマルシェ

○講座収入

● 8万円 20人-10講座

ガーデニング-1講座 パーマカルチャー-2講座 自然農法-1講座 有機稲作 -1講座 衣-1講座
食マクロビースウィーツ-2講座 クラフト-1講座 住建築-1講座

○収入 8万円×20名-10講座	1600万円
○経費 講師謝金 5万円交通費1万 スタッフ2名15千円交通費-1万 10万×10ヶ月×10講座	1000万
	収益600万
○地域通貨預託金1万円×200人-200万	200万
○オーガニックマルシェ-参加料 3万円-5回-15万	15万
	計 815万

運営事業体の提案 LLP

ここで提案したいのは出資者全員が組合員！という方法である。

資本的支出

● 10万円出資者 100人	1000万
● 地域通貨による預託金 500万	500万
● 交付金 オーガニックビレッジ交付金 国県町交付金 3000万	計3000万
	合計4500万
● 設備投資 半セーフビルド	
多目的ホール トイレ シャワー室 農産加工所 フリースクール	3000万
プレイパーク遊具	500万
環境整備1000万	1000万
	合計4500万

講座を通じてガーデン農場を2年で仕上げる 営業支出

1年目

地域づくり協力隊で3名ボランティアスタッフで回す 講座立案 農園ランドデザイン

2年目

地域づくり協力隊で3名ボランティアスタッフ

4月から10講座 10回 700万 収入 700万

有給スタッフ

1名-25万×12ヶ月 300万 インターン2名-3万円×12ヶ月-72万 372万

諸経費 パンフレット等

300万

支出 計672万

3年目

○入園収入3000人×500円→150万 150万

喫茶レストラン収入月50万×10ヶ月→500万 650万

農産物ジャムなど 50万

講座イベント 700万

収入 計1550万

有給スタッフ

2名-25万×12ヶ月 →600万

アルバイト 15万×3名→10ヶ月 →450万

インターン2名-3万円×12ヶ月 →72万

諸経費 パンフレット等

300万

支出 計1422万

具体的に誰が中心となり稼働するか？

白井健二朋子と有機農業者

舎燻夢ヒュッテ（安曇野）に始まり今のシャンティクティ（池田町）まで

パーマカルチャーの先駆者として全国に根強い支持を持つ

著書 パーマカルチャー事始め 創森社 パーマカルチャーしよう 自然食通信社

くっきりと安曇野の光の中で PEACE出版 安曇野の大地から PEACE出版

相談役

カミツレ研究所 SouGo 代表取締役社長

北條裕子

前長野県有機農法プラットホーム

吉田太郎

よしだ・たろう 東京都生まれ。筑波大学自然学類卒。都庁に入り、休暇を利用してキューバを頻繁に訪問。

3月末まで長野県農業試験場の企画経営部有機農業プラットフォーム担当を務めた。「文明は農業で動く」など農業分野の著作を多数執筆。

「1000万人が反グローバリズムで自給・自立できるわけ」などキューバに関する著作も多い。

ガーデンデザイナー 世界で活躍する長野県のガーデナー 小諸停車場ガーデンなど

和久井道夫

著書 信州で楽しむナチュラルガーデニング

地権者代表 池田町町議会議員

中山真

参考にしたい観光農業例

千葉県：クルックフィールズ（事業者：株式会社KURKKUクルック：東京都渋谷区）

2010年千葉県木更津市に「農業生産法人耕す(以下「耕す」)」を設立し「耕す木更津農場」を開場、約9万坪(30ha)の広大な土地からなる農場は「次の世代にも使い続けられる農地」を目指して有機野菜の栽培と平飼い養鶏を10年以上続けてきました。2019年、30haの広大な「耕す」農場を舞台に、クルックとして培ってきた消費や食のあり方を「農業」「食」「アート」の3つのコンテンツを軸に提案する、サステナブルファーム&パーク「KURKKU FIELDS(クルックフィールズ)」として2019年11月に第1期オープン。（資本金3000万）

北海道：えこりん村（事業者：株式会社アレフ）

人の営み・大地の営みをすべて自然に循環させ、それを訪れる人に見てやってもらい楽しんでもらう観光農園と言えよう。こういった取り組みでは先進的な取り組みとされ、安倍首相も見学し海外の要人を連れてきている。（資本金1億）

京都：Hunters & Farmers 田歌

古来より引き継がれし百姓の生き方、技を学ぶ「暮らし体験」 <https://tautasya.jp/life/#i>

古き良き日本の原風景の色濃く残る山里“京都美山”にて、農業・狩猟・採集・牧畜・建築などの自給的な暮らしを営みながら【宿泊・レストラン・アウトドア/自然体験・ジビエ獣肉販売】をおこなっている

今後の…収益の可能性

- ① 講座・講演料
- ② 農作物収入
- ③ オーガニックビレッジ宣言をする＝補助金（国庫より）
- ④ テナント料
- ⑤ クラウドファンディング＋協賛企業
- ⑥ 地域通貨による資金調達
 - 電子マネーを発行 Shagou-fieldのクラウドファンディング的な応援ハートマネーとします
 - 1万円で11千地域通貨を発行 1ヶ月で1%減価するハートマネーとして 日本円換金は0.85とします。
 - 入場料の外 農場レストラン 松本平加盟店 100店舗でも使用できる。
- ⑦ 食伝統の紹介とワークショップ
- ⑧ 循環型衣服の継承とワークショップ
- ⑨ オフグリットハウスのセンターホール建設

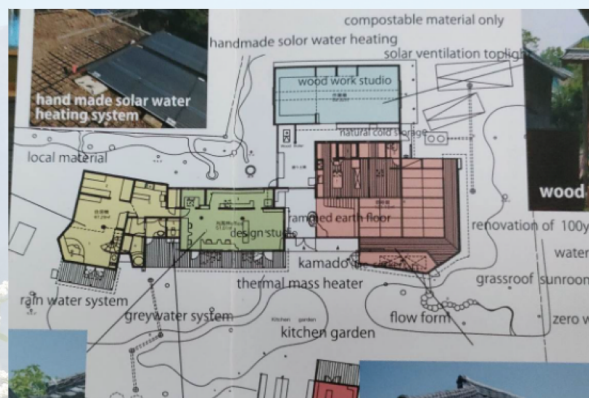
社口原自給の家 エネルギー 水 燃料 ゴミの有効化 自給経済

ワークショップで参加者全員で家を建てる！



オフグリッドの家

大阪万博 2025年の万博、テーマは「いのち輝く未来社大阪万博の展示物会のデザイン」大阪万博で表現展示されたものをサステナブルオーガニック博物館に移転（ゴミにしない提案）



地球に負荷をかけない 足るを知る 循環型の暮らしを世界に提言

池田町の象徴的な存在に…

北アルプス展望美術館を 持続可能な環境再生有機博物館として入場料2000円

内1000円は1ヶ月に1パーセント減価する地域通貨を返金

地域通貨で各施設をつなげて池田町の商圈の活性化を計る

有機再生の池田町の象徴的な農場となる

有機再生の町として内外に広報

またこうした事業は県内からも注目を集めることは必至

安全安心、持続可能な環境再生有機農法を行う町というイメージに変えていく



提案者：

399-8602

長野県北安曇郡池田町会染552-1 シャンティクティ

白井健二・朋子

TEL&FAX 0261-62-0638

E-mail : shalomusui@gmail.com